

**払込受領証**  
(コンビニエンスストア払用)

ゆうちょう銀行又は郵便局でお支払いの場合は左側の2枚だけをお出しください。

|   |
|---|
| 払込人氏名<br>関 秀一<br>様                        |
| 請求番号<br>1101153926-000-01                 |
| 金額<br><b>30240</b> 円<br>(内消費税額2240円)      |
| 受取人<br>一般社団法人<br>農山漁村文化協会                 |
| 金額訂正された<br>払込票はCVS用<br>印<br>取扱い<br>できません。 |

お客様控

**納品書(領収書)**  
毎度ありがとうございます。



**JA全農ぐんま**  
SS名 下仁田インターSS  
TEL 0274-82-6357  
(SS:3284505353)

|       |                                |               |
|-------|--------------------------------|---------------|
| 区分    | 年月日                            | シートNo.        |
| 上     | 様                              | 1017-7-30 253 |
| コード   | 32845-053-000000001-000-010 売上 |               |
| 現金フリー | P.                             | 数量(個)         |
| 商品    | 7                              | 24.02         |
| 金額(円) | 3000                           |               |
| 商品    |                                |               |
| ご案内   | (内消費税等 2240) Y3000             |               |
|       | 3027 010107                    |               |
|       | 7月はワイン<br>キャンペーン実施中!!!         |               |

目次

万:7000 5千:2000 3千: 0 18:43

※現金でお買上げの場合は領収書にかえさせていただきます。

# 領 収 証

領収書の発行日

15- No 085237

平成 30 年 4 月 16 日

小関 秀一 様

|     |         |
|-----|---------|
| 金 額 | 70,1476 |
|-----|---------|

| 内 訳 |   |
|-----|---|
| 現金  |   |
| 振込  | ✓ |
|     |   |
|     |   |

但し平成 29 年 4 月 30 年 3 月分 農業新聞 購読料  
上記正に領収致しました。

担当者印  
[Redacted]

出資者以外で  
取引額が5万円  
以上の場合  
印 紙 貼 付

**山形おきたま農業協同組合**

〒999-0121 山形県東置賜郡川西町大字上小松978番地  
TEL (0238) 46-3111

[Redacted]

2/2

↑ 毎月口座振替

## 新聞購読証明書

小関 秀一 様

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月分までの **しんぶん青森**  
新聞をご購読いただき、

合計 9,876 円の購読料をお支払いいただきました。

日本共産党置賜地区委員会  
委員長 岩本 康嗣

〒992-0053 山形県米沢市松が岬1-5  
TEL (0238) 23-8107 FAX 23-

[Redacted]

新聞購読証明書

小関 秀一 様

平成 29年 5月 ~ 平成 30年 7月分までの  
新聞をご購読いただき、

合計 40,128 円の購読料をお支払いいただきました。

有限会社 山形新聞長井南専売所

代表取締役 信太 武彦

山形県長井市四ッ谷一丁目1-30

TEL (0238) 84 - 8038

新聞購読証明書

小関 秀一 様

平成 29年 4月 ~ 平成 30年 3月分までの  
新聞をご購読いただき、

合計 37,166 円の購読料をお支払いいただきました。

山形県長井市東町8-31

ASA 長井・白鷹

宿澤新聞店

代表者 宿澤 勝敏

TEL 0238-88-2259

FAX 0238-88-5344

内山節 哲学講座 研修報告書 (政務活動費)



|      |                      |
|------|----------------------|
| 視察日時 | 2017年7月29日(土)~30日(日) |
| 講師   | 内山節                  |
| 会場   | 群馬県上野村 やまびこ荘         |

|               |                   |  |
|---------------|-------------------|--|
| 研修スケジュール      | 7:29 PM13:10~ 第1講 | 国家が意味を失っていく時代に   |
|               |                   | 現代社会と近代化システムの崩壊・劣化について。近代的システム＝国民国家・市民社会・資本主義が三位一体となってつくられた。しかし現在は個人を基盤としたシステムが構築されつつある。では、なぜ近代的システムは劣化したのか。①先進国への富の集中が、先進国でのみ問題点を多く隠してきた。②そして先進国への富の集中が不可能になったとき、問題点が顕著化してきた。③そして非先進国では急速な経済成長が、問題を退席し始めている。そもそも、国家とはなにだったのか。①国家の無視無性②選挙による権力の合法化③国家の中の人々は、国家の存在を前提に暮らしているが、そもそも今は共同体・コミュニティーを確認する時代である。国家システムに従属するのか、自分たちの世界をつくるのか。個人の生のあり方、関係の中に生を見出す時代に進んできた。  |
|               | PM15:50~ 第2講      | 現代社会と上野村の伝統回帰  |
|               |                   | 個人の社会と普遍主義、あるいは普遍主義はそもそも成立するかの検証作業であった。歴史の段階での差違はあれ、人々は地域のコミュニティーの名で暮らしていることの検証が現代社会を分析する上でのポイント。まず①風土について。私たちの社会・世界を作り出しているものは、自然と自然の関係、自然と人間の関係、人間と人間の関係にあって、この形が様々に異なるがゆえに様々な風土がつけられる。②伝統社会について、私たちが生きる世界の諸要素・労働・経済・暮らし・地域・文化・土着的な信仰等により一体化して展開していたが、近現代ではそれらの要素がバラバラになり、経済が肥大化・暴走して他の要素を破壊する。③上野村に見る伝統回帰は、行政の理念・基本目標も①様々な要素が一体となった村づくり②森と共に暮らす村に回帰する。③地域エネルギーで暮らす村、森からエネルギーをもらう村に回帰する。④森林整備、製材、木工生産、ペレット生産、木質バイオマス発電、茸生産、観光資源の活用等の施策の継続⑤村(地域)の経済の前にどのような労働体系をつくれれば村は存続するかを議論する。⑥村の労働体系の一員として暮らす。⑦村の労働体系に損害の人たちも加わられるようにする。⑧上野村を全体として社会的企業(ソーシャル・ビジネス)にする。といった視点で穏やかに動いている。これからの社会づくりと伝統回帰を考えれば、コミュニティー、共同体づくり・自然との関係の再創造・ローカリズムの面から、上野村はその一つのモデルを提示している。 |
|               | PM19:30~ 説明       | <p>■■■■さん (上野村産業情報センター)</p> <p>上野村、1250人の人口の中で、1ターンで移住者が240人もいる。その一人三枝さんも前横浜市出身の41歳。上野村にはかつて山村留学で訪れた経験から暮らしの拠点を上野村に決め、12年目。現在は村の産業情報センターで様々な事業の組み立て、情報提供等に携わる。村の概要・現在の課題等について、レクチャーを受ける。</p> <p>■■■■さん (上野村村会議員)</p> <p>彼も1ターン青年で定着8年。彼は農地と住まいを借り受け農業での暮らしを実践。近年はハウスでのイチゴ栽培も始め、『上野産のイチゴ』として学校給食や直売所、余剰分は村外の市場出荷で作物の主力品目になった。ユニークなキャラが村民に受け入れられ、消防団や青年会の参加を通じながら、村会議員になった。少数の議員の選挙であり、恒例議員も多い中で立候補は、多くの村民からも歓迎されたが、いざ実践になると地盤・血縁でつながれた支援者の説得は獲得票が少ない分相当な苦労だったと苦しい。つまり、報酬も少なく、政務活動費もない小規模自治体の議員後継者の課題を垣間見た。ただ、今後の自治体の運営に若者の声は不可欠。前村長8期の後の新村長と手を組みながらの活躍を期待したい。</p>   |
| PM21:00~ 懇親会  |                   |  |
| 7:30 AM 8:00~ | 上野村見学             |  |

村内の前年視察できなかった施設を研修視察①バイオ発電を利用したハウストマト栽培②地元産木材を中心に利用しての木工品製造所③地元最大の製材所と木工原料工場④移住者向け村営住宅を視察。

PM12:30～ 第3講

### 私たちはどこに根を張ったらよいのか

今講座のメインテーマ『私たちはどこに根を張ったらいいのか』。これまでの社会変革の理論をけんしょうし、これからの社会変革の思想を学ぶ。①全体を覆うシステムの変更を求めた時代は、新たな普遍思想を提示した。又、例えば社会主義的思想は近代思想の亜種でしかなかった。今は、それぞれの場所で生きる世界を再創造する時代であり、例えばフランスのローカリズムや米英の従業員共同所有事業体・協同組合・ソーシャルビジネス等の新たな経営形態の誕生が注目されている。更にヨーロッパの社会観、日本の伝統的な社会観はそれぞれの宗教観も相まって、ヨーロッパでは生きていく人間が社会の構成メンバーであるのに対し、日本は自然と生者と死者の社会観でくらしが営まれている。絶対の神キリストの世界と、道祖神を含めた地域社会に立脚した関係性の日本の文化には、根本的に隔たりがある。日本では自然と自然の関係、自然と人間の関係が自然を存在させてきた。同じように、自然と人間の関係、人と人の関係が人々を存在させてきた。更には死者との関係が、死者を存続させ生者を存続させてきた。たとえば原発はなぜだめかといえば、人間と自然の関係を壊す関係にあり、そのことの結果として世界の平和的秩序が生まれる。私たちは、地域社会の中でどのような関係性の中で生き、暮らしていくのか確認すべきである。システムとの関係・市場との関係等を含め、企業論理の金儲けが本当に人に幸福感をもたらすか、じっくり検証すべき時代かもしれない。

PM14:10～ 質問・まとめ

昨年に続き、群馬県上野村での講座を受講、改めて山間の2400人の村が今の日本になにを語りかけているのか、学ぶべきポイントがある。若い移住者が多く、村のR地の利を生かした産業・働く場の創出も、外からの資本注入でなく自前の資源・自然と共に暮らす地域の構築は、人口の大小や歴史的な産業構造の違いを確認しながらも、背伸びのしない地域づくりの時代に日本は入ったのだと思う。グローバルとは何か。ネット社会の情報とは何のために存在し続けるのか。精神的な解放感の中で、時には神様や先祖に手を合わせながらも、いい分だけじっくり継承してゆくコミュニティーあふれる地域づくりの本質を今講習で学んだ。